

21世紀の新しい  
災害援助協定の締結

風間市長：北海道も関東も東北も、『地震』という危険と隣り合わせなのではないでしょうか？

白石市は登別市と個別に災害時相互援助協定を結んでいます。海老名市とも災害時相互援助協定を結んでいます。

この3人が集まって、平成7年に結んだこの協定を一度見直して、3者でひとつの災害協定ができるかと市民に安心感をいっばい与えられると思うんです。

内野市長：そうですね。緊急時はお互いに助け合わなければなりません。

わたしたちが常に言っていることなんですが、災害が発生したときに寝たきりの方や障がいのある方、小さな子どもたちの生活環境の確保が問

題となります。

そこで、一時、白石市に復興するまで疎開してもらうと白石市との協定では明記しているんですよ。

バス1台借り上げれば、そういう方たちを白石市まで乗せてきて、しばらくの間は温泉やスパシミュランドなどで生活してもらおうと。もちろん基本的には実費はお支払いをして。

そして、ある程度復興したら順番に帰ってきてもらうという形も良いのではないかと考えています。

小笠原市長：21世紀の新しい災害協定の形として、いわゆる『親戚市民』をつくるのかね。普段から交流していれば、気になるんじゃないですか。

何かあったとき、普段から「あの人がどうしているかな？」と。そういう関係の中で災害協定を結ぶというのはいかがでしょうか。

登別・白石・海老名

3市防災協定の締結が決定

風間市長から提案のあった新しい3市での災害援助協定の締結に向けて、てい談後、3市の事務担当者が連絡などを取り合いながら、

各市で事務を進めてきました。

その結果、4月下旬に防災協定の調印を取り交わすこととなりました。

おわりに

内野市長：海老名市と白石市は、姉妹都市になる前に友好都市として3年ありました。

そのきっかけはいろいろあると思いますが、わたしが思うのは、あまり背伸びをしないうで、できることからやっていくことが大事だと思います。

平成23年に市制40周年の節目を迎えます。もつと交流を活性化させていきたいと考えています。

小笠原市長：海老名市とは、白石市との物産交流で出会い良い関係を築くことができました。

これから災害援助協定を締

結してより一層仲良くさせていただきたいと思えます。

まずは、お互いの広報紙を交換するところから始めて、これから交流を進めていきたいと思えます。

風間市長：これからの人的交流、物産交流そして政策交流、職員間の交流なども含めて、発展的に新たな姉妹都市のトライアングルをつくっていくければと思います。

今後機会があるごとに3市で情報交換しながら、3市がともに発展していけるような、前向きで建設的な話をしたい関係構築していきたいと思えますので、これからどうぞよろしくお願ひします。

海老名市から  
消防車両の寄贈

この市長てい談の際、当市の消防車両が更新時期に来ていることを小笠原市長が話したところ、海老名市長から海老名市の消防車両を5台寄贈していただける申し出がありました。

当市としては、この申し出をありがたくお受けすることとし、4月下旬に海老名市にて贈呈式を行うこととしています。



▲白石城をバックに、3人でガッチリと握手

問い合わせ

総務グループ  
☎(85) 1130

今回のてい談では、本市と姉妹都市である白石市を軸に今後、3市がより一層の友好的な交流を深めていくことを確認することができました。